

寿楽つうしん

平成26年4月号

平成26年4月発行

発行 老人福祉センター菊名寿楽荘
発行責任者 富田 公道
横浜市港北区菊名3-10-20
TEL 045(433)1255

いかにして静心なく散る花の のどけき春の色と見ゆらむ

藤原定家

桜(サクラ)

サクラ(桜)は、バラ科サクラ亜科サクラ属の落葉樹の総称。日本においてはサクラは開花が話題となる点において、他の植物とは一線を画す存在です。現在ではメディアなどで俗に、単に「桜」と言うと、桜の中で極端に多く植えられている品種のソメイヨシノの事を指すことも多いようです。サクラの果樹はサクランボ(チェリー)として食用にされます。サクランボは世界的に利用されており、英語では桜の花のことをCherry blossom(チェリーの花)と呼ぶのが一般的でした。ただし、近年では日本語からsakuraと呼ばれることも増えています。日本では平安時代の国風文化の影響以降、桜は花の代名詞のようになり、春の花の中でも特別な位置を占めるようになりました。桜の花の下の宴会の花見は風物詩です。各地に桜の名所があり、有名な一本桜も数多く存在します。サクラの開花時期は関東以西の平地では3月下旬から4月半ば頃が多く、日本の年度は4月始まりであることや、学校に多くの場合サクラが植えられていることから、人生の転機を彩る花にもなっています。サクラは、落葉広葉樹で、春に白色や淡紅色から濃紅色の花を咲かせます(桜色)。花は日本では鑑賞用途としては他の植物に比べ、特別な地位にあります。果実を食用とするほか、花や葉の塩漬けも食品などに利用されます。

『万葉集』には色々な植物が登場しますが、桜もその一つです。しかし、中国文化の影響が強かった奈良時代は和歌などで単に「花」といえば梅をさしていました。万葉集においては梅の歌118首に対し桜の歌は44首に過ぎませんでした。その後平安時代に国風文化が育つに連れて徐々に桜の人氣が高まり、「花」とは桜を指すようになりました。古今和歌集仮名序にある王仁の歌とされる「難波津の咲くやこの花冬ごもり今は春べと咲くやこの花」の「花」は梅ですが、平安時代の歌人である紀友則の歌「ひさかたの光のどけき春の日にしづ心なく花の散るらむ」の「花」は桜です。



今月の和歌の解説

【通釈】どうしてあわただしく散る花がのどかな春の色と見えるのだろう

【補記】ふじわらのさだいえ): 鎌倉時代初期の公家・歌人。諱は「ていか」と音読みされることが多い。藤原北家御子左流で藤原俊成の二男。最終官位は正二位権中納言。京極殿または京極中納言と呼ばれた。歌人の寂蓮は従兄、太政大臣の西園寺公経は義弟にあたる。平安時代末期から鎌倉時代初期という激動期を生き、御子左家の歌道における支配的地位を確立し、わが国の代表的な歌学の宗匠として永く仰がれてきた歴史がある。俊成の「幽玄」をさらに深化させて「有心(うしん)」をとらえた。

この歌は古今集にある有名な紀友則の歌「ひさかたのひかりのどけき春の日に静心なく花の散るらむ」(日の光ののどかな春の日だというのにどうして、こうもあわただしく花が散るのだろう)をふまえて、その反対を読んだもの。軽いパロディの味わいがある。このような歌の技法を本歌取りといい、古歌の心、または、言葉を借りて用い、それに何か、あやをつけて新しい歌を作り上げる技法である。もちろん、本歌がわからなければ、本歌取りの歌の面白さは失われるわけだから、知的な面白さである。ひねり、とかもじりに教養を絡ませて作られるのが本歌取りである。

菊名寿楽荘近場のお花見スポット 県立三ツ池公園

三つの池を取り囲む樹林生い茂る静かな自然環境が特徴の公園。園内には約1600本の桜があり、満開時期には花見客で賑わいをみせる。

お花見情報 例年の見ごろ 3月下旬~4月上旬 本数 約1600本
主な種類 ソメイヨシノ、ベニシダレ、ヨコハマヒザクラほか
所在地 神奈川県横浜市鶴見区三ツ池公園
問合せ先 045-581-0287/三ツ池公園管理事務所
料金 無料
交通 JR鶴見駅西口→新横浜行きバス20分 バス停:三ツ池公園北門下車、徒歩3分





4月のスケジュール



日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
		つるし雛		横浜郷土史	初心者英会話 初心者水彩画	歴史講座
6	7	8	9	10	11	12
卓球開放	はじめての 太極拳		初心者ウクレレ 健康相談	歌声教室 初めての生け花	初心者英会話 初心者健康麻雀	
13	14	15	16	17	18	19
卓球開放	茶道入門	つるし雛	栄養相談	横浜郷土史	初心者英会話 初心者水彩画	歴史講座
20	21	22	23	24	25	26
卓球開放	はじめての 太極拳	休館日	初心者ウクレレ 健康相談	歌声教室 初めての生け花	初心者健康麻雀	
27	28	29	30			
卓球開放	茶道入門					

の文字は開講日

4月8日は花祭り

花祭りは、仏教の開祖、釈迦の生誕を祝福する仏教行事。灌仏会(かんぶつえ)仏生会(ぶっしょうえ)といい、「花祭り」は明治以降の名称。浴像会、降誕会などともいわれます。古代から釈迦の生まれたインドで行われてきた行事からのもので、日本ではお盆とともに仏教伝来からの歴史があります。推古天皇代(606)、聖徳太子の提唱で元興寺で行われたのが最初とか。この日、各寺には花で飾った小堂、花御堂(はなみどう)がつけられます。金属製の幼仏像をその中にまつり、甘茶が参拝者によってその誕生仏にかけられます。甘茶を灌(そそ)ぐ行事なので「灌仏会」。花御堂は釈迦が生まれたところルンピニ園の花園を表しています。ちなみに、アンデスのfolklore、マウアケーニョの日本での別名も花祭りです。皆さんも聞いたことがあるかもしれませんね。



水虫の話

水虫は、とてもポピュラーな感染症です。昔は「お父さんの病気」というイメージがありました。しかし、生活様式の変化に伴って感染の機会が増え、男女を問わず、また若い人にもよく見られるようです。今では日本人の5人に1人が感染しているという調査結果も出ています。専門医で診察を受けて、不快な症状を1日でも早くなくしましょう。適切なくりを根気よく塗り続ければ、水虫は完治します。水虫を放置しておく、他の部分にも広がって治りにくくなるばかりでなく、周りの人にもうつしてしまいます。水虫かな?と思ったら、早めに専門医に診てもらいましょう。簡単な検査をすればすぐに水虫かどうかわかります。



皆さんは、「かめのこうよりとしのこう」という言葉をご存知ですか。それでは、それを漢字で書いてみてください。キチンとかけたでしょうか。「亀の甲より年の効?」それとも「亀の甲より年の巧?」正解は「亀の甲より年の功」(「亀の甲より年の劫」とも書く。)でした。「亀の甲より年の功」とは、年長者の豊富な経験は貴重であり、尊重すべきものだという事です。亀は万年生きると言われており、それに比べれば人生の八十年程度は短く感じるとしても、年長者の経験から身につけた知恵や技術は貴ぶべきだという意味。「甲」とは、甲羅のこと。「亀の甲」と「年の功」の同音をかけてできたことわざ。「亀の甲より年の効」と書くのは誤り。また、「年の功」を「年をとる」という意味で使うのは誤り。英語にも同じようなことわざがあり、Age and experience teach wisdom.(老いと経験は賢明さを教える)。皆さんも若い人から尊敬されるように、常に知恵を発揮するように心がけましょう。さもないと、「麒麟(きりん)も老いては驚馬(どば)に劣る」(どんなにすぐれた才能を持つ人でも、年をとって衰えると平凡な人にも及ばなくなるというたとえ。)と言われてしまいますよ。特にご婦人は注意しないと、結婚当初は良妻賢母になろうと思っていますが、結婚10年目には良妻が消え、結婚20年目には賢母の文字が消え、結婚30年目には並(波?)の女となります。(波の女と書くと婆です。←でも可愛いお婆ちゃんになってね!)

[編集後記]

